

第3章

コア・カリキュラム

はじめに

1. 本章の構成

本章では、小学校及び中・高等学校の教員養成並びに教員研修のコア・カリキュラムを提案する。本章は次の4つの節から構成される。

第1節 小学校教員養成 外国語（英語）コア・カリキュラム

第2節 中・高等学校教員養成 外国語（英語）コア・カリキュラム

第3節 小学校教員研修 外国語（英語）コア・カリキュラム

第4節 中・高等学校教員研修 外国語（英語）コア・カリキュラム

各節の最後には、コア・カリキュラムの構造図が示されている。

<第1節・第2節について>

第1節及び第2節では、大学における教員養成のコア・カリキュラムを記載する。教員養成コア・カリキュラムは「外国語／英語科の指導法」^{注)}及び「外国語／英語科に関する専門的事項」^{注)}で構成され、それぞれにおいて、「全体目標」「一般目標」「学習項目」「到達目標」が示されている。「全体目標」は、「外国語／英語科の指導法」及び「外国語／英語科に関する専門的事項」において達成すべき包括的な目標である。「一般目標」は、学習すべき内容のまとまりごとに設定された目標である。「学習項目」は、それぞれの内容のまとまりにおいて扱うべき具体的な項目であり、「到達目標」は、個々の学習項目において達成すべき目標である。

<第3節・第4節について>

第3節及び第4節においては、現職教員研修のためのコア・カリキュラムについて、「全体目標」「一般目標」「研修項目」「到達目標」が示されている。「全体目標」は研修全体を通して達成すべき包括的な目標である。「一般目標」は、研修すべき内容のまとまりごとに設定された目標である。「研修項目」は、それぞれの内容のまとまりにおいて扱うべき具体的な項目であり、「到達目標」は、個々の研修項目において達成すべき目標である。

2. コア・カリキュラムの位置づけ

本章に記載しているコア・カリキュラムの解釈及び運用における留意点を、以下に示す。

<小学校及び中・高等学校教員養成コア・カリキュラムについて>

- ① 小学校教員養成コア・カリキュラムは、全ての小学校教員養成課程への適用が想定されており、小学校教員免許の取得希望者全てが対象となる。また、中・高等学校教員養成コア・カリキュラムは、中・高等学校の外国語（英語）教員免許の取得希望者全てが対象となる。
- ② コア・カリキュラムに記載している学習項目は、「外国語／英語科の指導法」及び「外国語／英語科に関する専門的事項」の中で全ての内容を盛り込むことを想定したものである。内容のまとまりや項目を独立させて必修科目で扱う場合には、必ずしも当該項目を「外国語／英語科の指導法」及び「外国語／英語科に関する専門的事項」で扱う必要

はない。例えば、「第二言語習得」「英語教育評価論」「英語教材開発論」などを独立した必修科目として設定している場合、その内容は「外国語／英語科の指導法」では扱わないということもあり得る。

- ③ コア・カリキュラムに記載している学習項目は、「外国語／英語科の指導法」及び「外国語／英語科に関する専門的事項」において扱うべき必要最低限の項目を示したものであり、これら以外にも各大学において独自に学習項目を設定することができる。
- ④ 「外国語／英語科の指導法」及び「外国語／英語科に関する専門的事項」については、両者を統合する科目を設定することも可能である。
- ⑤ 個々の学習項目を1回の授業で扱う必要があるわけではない。1つの項目を複数回の授業で扱うことも、複数の項目を1回の授業で扱うことも可能である。
- ⑥ 学習項目は内容のまとまりごとに記載されており、記載の順序は、学習すべき順序を示すものではない。
- ⑦ 記載の順序は、学習内容の重要度を示すものではない。

<小学校及び中・高等学校教員研修コア・カリキュラムについて>

- ① 個々の研修項目をそれぞれ独立した研修で扱う必要があるわけではない。
- ② 研修項目の記載順序は、研修で実施すべき順序を示すものではない。
- ③ 研修項目の記載順序は、研修内容の重要度を示すものではない。

注)

現行の教員免許法においては、教職課程において「教職に関する科目」と「教科に関する科目」が設定されており、後者の中に「各教科の指導法」が位置づけられている。これに対して、平成27年12月21日に出された中央教育審議会答申『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～』においては「教職課程における科目の大きくくり化及び教科と教職の統合」が提言されており、以下の方針が示されている。

「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の中の「教科の指導法」については、学校種ごとの教職課程の特性を踏まえつつも、大学によっては、例えば、両者を統合する科目や教科の内容及び構成に関する科目を設定するなど意欲的な取組が実施可能となるようにしていくことが重要であり、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」等の科目区分を撤廃することが望ましい。(p. 32)

これらを踏まえた教職課程の「見直しのイメージ」(pp. 63-67)として、「教科及び教科の指導法に関する科目」という科目区分が設定され、その中で必要な事項として「教科に関する専門的事項」と「各教科の指導法」が示されている。本コア・カリキュラムでは、この中央教育審議会答申で用いられている用語に基づき、「教科の指導法」の名称として、小学校については「外国語の指導法」、中・高等学校においては「英語科の指導法」を用い、「教科に関する専門的事項」の名称として、小学校については「外国語に関する専門的事項」、中・高等学校については「英語科に関する専門的事項」を用いている。

I. 小学校教員養成課程 外国語(英語)コア・カリキュラム

【1】外国語の指導法【2単位程度を想定】

【全体目標】

小学校における外国語活動(中学年)・外国語(高学年)の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身に付ける。

【学習内容】

1. 授業実践に必要な知識・理解

(1) 小学校外国語教育についての基本的な知識・理解

◇一般目標

小学校における外国語教育に係る背景知識・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。

◇学習項目

- ①学習指導要領
- ②主教材
- ③小・中・高等学校の連携と小学校の役割
- ④児童や学校の多様性への対応

◇到達目標

- 1) 小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動・外国語、中・高等学校の外国語科の目標・内容について理解している。
- 2) 主教材の趣旨・構成・特徴について理解している。
- 3) 小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解している。
- 4) 様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性への対応について、基礎的な事柄を理解している。

(2) 子どもの第二言語習得についての知識とその活用

◇一般目標

児童期の第二言語習得の特徴について理解する。

◇学習項目

- ①言語使用を通じた言語習得
- ②音声によるインプットの内容を類推し、理解するプロセス
- ③児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方
- ④コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて他者に配慮しながら、伝え合うこと
- ⑤受信から発信、音声から文字へと進むプロセス
- ⑥国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づき

◇到達目標

- 1) 言語使用を通して言語を習得することを理解し、指導に生かすことができる。
- 2) 音声によるインプットの内容の類推から理解へと進むプロセスを経ることを理解し、指導に生かすことができる。
- 3) 児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方を理解し、指導に生かすことができる。
- 4) コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に生かすことができる。
- 5) 受信から発信、音声から文字へと進むプロセスを理解し、指導に生かすことができる。
- 6) 国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かすことができる。

2. 授業実践

(1) 指導技術

◇一般目標

実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。

◇学習項目

- ①英語での語りかけ方
- ②児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
- ③文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方

◇到達目標

- 1) 児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。
- 2) 児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進めることができる。
- 3) 文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方について理解し、指導に生かすことができる。

(2) 授業づくり

◇一般目標

実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。

◇学習項目

- ①題材の選定、教材研究
- ②学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、年間指導計画・単元計画・学習指導案等）
- ③ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方
- ④ICT等の活用の仕方
- ⑤学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）

◇到達目標

- 1) 題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。
- 2) 学習到達目標に基づいた指導計画（年間指導計画・単元計画・学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメントなど）について理解し、学習指導案を立案することができる。
- 3) ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方について理解している。
- 4) ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かすことができる。
- 5) 学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について理解している。

【学習形態】

上記の内容を学習する過程においては、教員の講義に留まることなく、以下の学習形態を必ず盛り込むこととする。

- ① 授業観察：小・中・高等学校の授業映像の視聴や授業の参観
- ② 授業体験：授業担当教員による指導法等の実演（学生は児童役として参加する等）
- ③ 模擬授業：1単位時間（45分）の授業或いは特定の活動を取り出した模擬授業
手順例：計画→準備→実施→振り返り→改善→再計画……

〔2〕外国語に関する専門的事項 【1 単位程度を想定】

【全体目標】

小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身に付ける。

【学習内容】

1. 授業実践に必要な英語力と知識

(1) 授業実践に必要な英語力

◇一般目標

小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付ける。

◇学習項目

- ①聞くこと
- ②話すこと（やり取り・発表）
- ③読むこと
- ④書くこと

◇到達目標

- 1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。
- 2) 授業実践に必要な話す力（やり取り・発表）を身に付けている。
- 3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。
- 4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。

(2) 英語に関する背景的な知識

◇一般目標

小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。

◇学習項目

- ①英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）
- ②第二言語習得に関する基本的な知識
- ③児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）
- ④異文化理解

◇到達目標

- 1) 英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）について理解している。
- 2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。
- 3) 児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解している。
- 4) 異文化理解に関する事柄について理解している。

[3] 小学校教員養成課程 英語コースで扱う項目案**【全体目標】**

外国語活動・外国語の授業を実践するためのより高い指導力を身に付ける。

◇学習項目

1. 専門的な知識

- (1) 第二言語習得理論についての知識
- (2) 音声学についての知識
- (3) 第二言語教授法についての知識
- (4) カリキュラムについての知識
- (5) 教材についての知識
- (6) 語用論

2. 専門的な指導技術

- (1) リスニングの指導
- (2) スピーキングの指導
- (3) リーディングの指導
- (4) ライティングの指導

小学校教員養成課程
外国語（英語）コア・カリキュラム 構造図

- ・ 授業設計と指導技術の基本を身に付ける。
- ・ 小学校において外国語活動・外国語の授業ができる国際的な基準であるCEFR B1レベルの英語力を身に付ける。

外国語・外国語活動において育成を目指す資質・能力

（「小学校学習指導要領（案）パブリックコメント版」「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料」より作成）

知識・技能

- ・ 外国語の特徴やきまりに関する理解
- ・ 言語の働きに関する理解
- ・ 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造などを、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「比較こと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能 など

思考力・判断力・表現力等

◆情報を整理しながら考えなどを形成し、外国語で表現したり、伝え合ったりすることに関する指導

- ・ 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。
- ・ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。
- ・ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。
- ・ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。 など

学びに向かう力・人間性等

- ・ 外国語を通じて、言語やその背景にある文化を理解しようとする態度
- ・ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・ 他者に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えや気持ちなどを外国語で話したり書いたりして表現使用とする態度 など

外国語の指導法 【2単位程度を想定】

授業実践に必要な知識・理解

小学校外国語教育についての基本的な知識・理解

- 学習指導要領
- 主教材
- 小・中・高等学校の連携と小学校の役割
- 児童や学校の多様性への対応

子どもの第二言語習得についての知識とその活用

- 言語使用を通じた言語習得
- 音声によるインプットの内容を類推し、理解するプロセス
- 児童の発達段階の特徴を踏まえた音声によるインプットの在り方
- コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて他者に配慮しながら、伝え合うこと
- 受信から発信、音声から文字へと進むプロセス
- 国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づき

授業実践

指導技術

- 英語での語りかけ方
- 児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
- 文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方

授業づくり

- 題材の選定、教材研究
- 学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、年間指導計画・単元計画・学習指導案等）
- ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方
- ICT等の活用の仕方
- 学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）

外国語に関する専門的事項 【1単位程度を想定】

授業観察や体験

授業担当教員による実演を児童の立場で体験

授業映像の視聴や授業の参観



模擬授業

計画

準備

実施

振り返り

改善



授業実践に必要な英語力と知識

授業実践に必要な英語力

- 聞くこと
- 話すこと（やり取り・発表）
- 読むこと
- 書くこと

英語に関する背景的な知識

- 英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）
- 第二言語習得に関する基本的な知識
- 児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）
- 異文化理解

※ 「外国語の指導法」及び「外国語に関する専門的事項」については、両者を統合する科目を設定することも可能である。

※ 図中の学習項目は、それぞれを1回の授業で扱うことを意味しているのではなく、必ず扱うべき内容であることを示している。

Ⅱ. 中・高等学校教員養成課程 外国語(英語) コア・カリキュラム

【1】英語科の指導法【8単位程度を想定】

【全体目標】

中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

【学習内容】

(1) カリキュラム／シラバス

◇一般目標

中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画について理解する。また、小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領並びに教材・教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。

◇学習項目

- ①学習指導要領
- ②教科用図書
- ③目標設定・指導計画
- ④小・中・高等学校の連携

◇到達目標

- 1) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の学習指導要領について理解している。
- 2) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の教科用図書について理解している。
- 3) 学習指導要領の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力等」の3つの資質・能力(以下、「3つの資質・能力」という)とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。
- 4) 小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領や教科用図書等の教材、並びに小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方の基本について理解している。

(2) 生徒の資質・能力を高める指導

◇一般目標

中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。

◇学習項目

- ①聞くことの指導
- ②読むことの指導
- ③話すこと（やり取り・発表）の指導
- ④書くことの指導
- ⑤領域統合型の言語活動の指導
- ⑥英語の音声的な特徴に関する指導
- ⑦文字に関する指導
- ⑧語彙・表現に関する指導
- ⑨文法に関する指導
- ⑩異文化理解に関する指導
- ⑪教材研究・ICT等の活用
- ⑫英語でのインタラクション
- ⑬ALT等とのティーム・ティーチング
- ⑭生徒の特性や習熟度に応じた指導

◇到達目標

- 1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 3) 話すこと（やり取り・発表）の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 6) 英語の音声的な特徴に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 7) 文字の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 8) 語彙・表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 9) 文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。

13) ALT等とのティーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。

14) 生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。

(3) 授業づくり

◇一般目標

中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。

◇学習項目

①学習到達目標に基づく授業の組み立て

②学習指導案の作成

◇到達目標

1) 学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。

2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。

(4) 学習評価

◇一般目標

中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと（やり取り・発表）」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」（生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法）について理解する。

◇学習項目

①観点別学習状況の評価、評価規準の設定、評定への総括

②言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）

◇到達目標

1) 観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。

2) 言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。

(5) 第二言語習得

◇一般目標

学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。

◇学習項目

- ①第二言語習得に関する知識とその活用

◇到達目標

- 1) 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。

【学習形態】

上記の内容を学習する過程においては、教員の講義にとどまることなく、次の学習形態を必ず盛り込むこととする。

- ①授業観察：授業映像の視聴や授業の参観
- ②授業体験：授業担当教員による実演を生徒の立場で体験
- ③模擬授業：1単位時間（50分）の授業或いは特定の言語活動を取り出した模擬授業
手順例：計画→準備→実施→振り返り→改善

〔2〕英語科に関する専門的事項【20単位程度を想定】

1. 英語コミュニケーション

【全体目標】

中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。

【学習内容】

◇学習項目

- ①聞くこと
- ②読むこと
- ③話すこと（やり取り・発表）
- ④書くこと
- ⑤領域統合型の言語活動

◇到達目標

- 1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。
- 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。
- 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと（やり取り・発表）ができる。
- 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。
- 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。

2. 英語学

【全体目標】

中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。

【学習内容】

◇学習項目

- ①英語の音声の仕組み
- ②英文法
- ③英語の歴史の変遷、国際共通語としての英語

◇到達目標

- 1) 英語の音声の仕組みについて理解している。

- 2) 英語の文法について理解している。
- 3) 英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解している。

3. 英語文学

【全体目標】

英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国・地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。

【学習内容】

◇学習項目

- ①文学作品における英語表現
- ②文学作品から見る多様な文化
- ③英語で書かれた代表的な文学

◇到達目標

- 1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。
- 2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の文化について理解している。
- 3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。

4. 異文化理解

【全体目標】

社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。併せて、英語が使われている国・地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。

【学習内容】

◇学習項目

- ①異文化コミュニケーション
- ②異文化交流
- ③英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化

◇到達目標

- 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。
- 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。
- 3) 英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。

中・高等学校教員養成課程
外国語（英語）コア・カリキュラム 構造図

- 「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の5つの領域にわたる生徒の総合的なコミュニケーション能力を育成するための授業の組み立て方及び指導・評価の基礎を身に付ける。
- 生徒の理解の程度に応じて英語で授業ができる指導力を身に付ける。
- 国際的な基準であるCEFR B2レベルの英語力を身に付ける。

外国語において育成を目指す資質・能力

（「中学校学習指導要領（案）パブリックコメント版」「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料」より作成）

知識・技能

- 外国語の特徴やきまりに関する理解
- 言語の働きに関する理解
- 外国語の音声や語彙、表現、文法などを、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能 など

思考力・判断力・表現力等

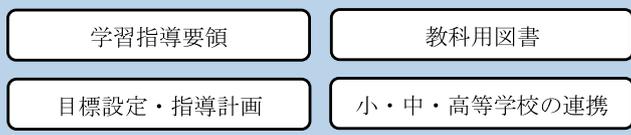
- ◆ 外国語で表現したり、伝え合ったりすること
 - コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力
 - コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力
 - 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力
- ◆ 情報を整理しながら考えなどを形成すること
 - 目的などに応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力
 - 知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力
 - 形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力 など

学びに向かう力・人間性等

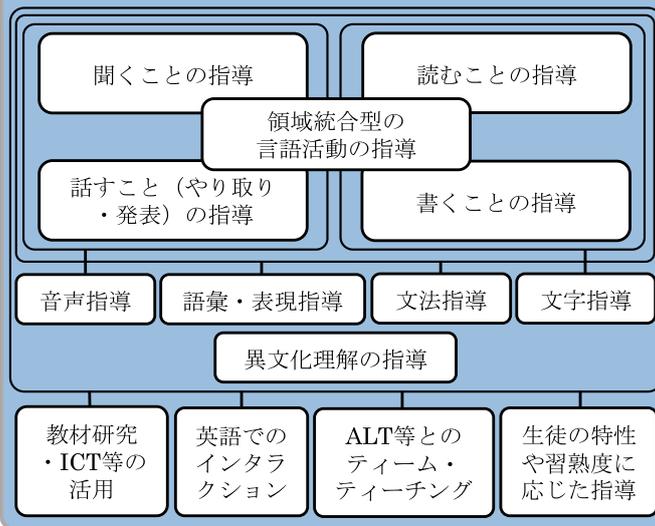
- 外国語の背景にある文化を理解しようとする態度
- 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度
- 外国語を通して積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度 など

英語科の指導法 【8単位程度を想定】

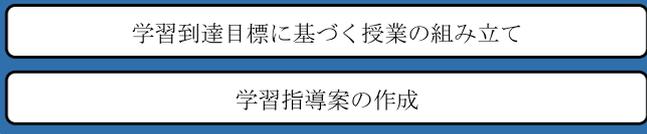
カリキュラム / シラバス



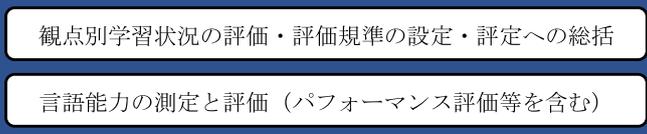
生徒の資質・能力を高める指導



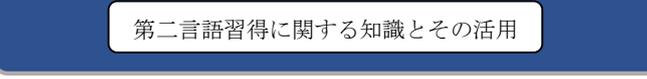
授業づくり



学習評価



第二言語習得



英語科に関する専門的事項 【20単位程度を想定】

授業観察

授業映像の視聴や授業の参観

授業体験

授業担当教員による実演を生徒の立場で体験

模擬授業

計画

準備

実施

振り返り

改善

聞くこと

読むこと

領域統合型の言語活動

話すこと
(やり取り・発表)

書くこと

学

英語の音声の仕組み

英文法

英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語

文学

文学作品における英語表現

文学作品から見る多様な文化

英語で書かれた代表的な文学

異文化理解

異文化コミュニケーション

異文化交流

英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化

- ※ 「英語科の指導法」及び「英語科に関する専門的事項」については、両者を統合する科目を設定することも可能である。
- ※ 図中の学習項目は、それぞれを1回の授業で扱うことを意味しているのではなく、必ず扱うべき内容であることを示している。

Ⅲ. 小学校教員研修 外国語（英語）コア・カリキュラム

【全体目標】

小学校における外国語活動・外国語の授業を実施するための知識・技能・英語力を身に付ける。

【研修内容】

1. 指導に必要な知識・技能

◇一般目標

小学校における外国語活動・外国語の指導に必要な知識・技能を身に付ける。

◇研修項目

- ①学習指導要領
- ②主教材
- ③子どもの第二言語習得についての知識とその活用
- ④英語での語りかけ方
- ⑤児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
- ⑥文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方
- ⑦題材の選定、教材研究
- ⑧学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）
- ⑨ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方
- ⑩ICT等の活用の仕方
- ⑪学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）
- ⑫小・中・高等学校の連携と小学校の役割
- ⑬指導計画（年間指導計画・短時間学習）
- ⑭英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）
- ⑮第二言語習得に関する基本的な知識
- ⑯児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）
- ⑰異文化理解
- ⑱児童や学校の多様性への対応

◇到達目標

- 1) 外国語活動・外国語、中・高等学校の外国語科の目標・内容を理解している。

- 2) 主教材の趣旨・特徴・構成、効果的な使用方法を理解し、実践に生かすことができる。
- 3) 子どもの第二言語の学び方の特徴について理解し、指導に生かすことができる。
- 4) 児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。
- 5) 効果的に児童の英語での発話を引き出し、円滑にやり取りを進めることができる。
- 6) 効果的に音声言語から文字言語へ発展させ、読む活動及び書く活動へ導くことができる。
- 7) 児童の発達段階・興味関心にあった題材を選定し、教材研究ができる。
- 8) 単元計画を立て、学習指導案を書くことができる。
- 9) ALT等とのティーム・ティーチングの中で担任の果たす役割を理解し、実践できる。
- 10) ICT等を有効に活用できる。
- 11) 学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について理解し、適切に評価できる。
- 12) 小・中・高等学校連携の在り方、小学校の果たす役割を理解し、指導に生かすことができる。
- 13) カリキュラム・マネジメントについて理解し、年間指導計画及び効果的な短時間学習の計画を立てることができる。
- 14) 英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）を理解し、指導に生かすことができる。
- 15) 第二言語習得に関する基本的な事柄を理解し、指導に生かすことができる。
- 16) 児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解し、唱えたり歌ったりできる。
- 17) 異文化理解に関する基本的な事柄を理解している。
- 18) 児童や学校の多様性について理解し、適切に対応することができる。

2. 英語力

◇一般目標

小学校における外国語活動・外国語の指導に必要な英語力を身に付ける。

◇研修項目

- ①授業で扱う主たる英語表現の正しい運用
- ②発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話
- ③板書や提示物における英語の正しい表記
- ④ALT等と授業について打ち合わせをするための表現
- ⑤クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り
- ⑥児童の発話や行動に対する適切な言い直し
- ⑦児童の理解に合わせた適切な言い換え
- ⑧児童の発話や行動に対する即興的な反応

◇到達目標

- 1) 授業で扱う主たる英語表現を正しく話すことができる。
- 2) 発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話ができる。

- 3) 板書や提示物を正しい英語で書ける。
- 4) ALT 等と授業について英語で打ち合わせできる。
- 5) クラスルーム・イングリッシュを土台に、児童と意味のあるやり取りができる。
- 6) 児童の発話や行動に対して、正しい発話に導くために適切な言い直しができる。
- 7) 児童の理解を促すために適切な言い換えができる。
- 8) 児童の発話や行動を共感的に受け取めたり、さらにやり取りを進めたりするために、即興的に英語で反応できる。

3. 授業研究

◇一般目標

授業研究を通して小学校における外国語活動・外国語の指導に必要な指導力を向上させる。

◇研修項目

- ①授業観察（中学校の授業観察も含む）
- ②授業公開
- ③公開授業等の企画・運営
- ④モデルとなる授業

◇到達目標

- 1) 基礎：明確な視点を持って授業を観察し、指導に生かすことができる。
発展：授業を観察することを通して、授業者の指導理念や児童の学習を促進・遅滞させている要因を分析できる。
- 2) 基礎：授業を公開することを通して自身の指導力・英語力の課題を発見し次の指導に生かすことができる。
発展：授業を公開することを通して効果的な指導法や教材を示し、広めることができる。
- 3) 推進：学校や地域の課題や進むべき方向性を的確に判断し、効果的に公開授業等の企画・運営ができる。
- 4) 推進：学習指導要領の趣旨や子どもの第二言語習得の特徴を反映した授業を行い、他の教員に対しモデルを示す。

小学校教員研修
外国語（英語）コア・カリキュラム 構造図

外国語・外国語活動において育成を目指す資質・能力

（「小学校学習指導要領（案）パブリックコメント版」「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料」より作成）

知識・技能

- ・ 外国語の特徴やきまりに関する理解
- ・ 言語の働き、役割に関する理解
- ・ 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造などを、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能 など

思考力・判断力・表現力等

◆情報を整理しながら考えなどを形成し、外国語で表現したり、伝え合ったりすることに関する指導

- ・ 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。
- ・ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。
- ・ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。
- ・ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。 など

学びに向かう力・人間性等

- ・ 外国語を通じて、言語やその背景にある文化を理解しようとする態度
- ・ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・ 他者を配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えや気持ちなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度 など

研修項目

目的

指導に必要な知識・技能

学習指導要領
主教材
子どもの第二言語習得についての知識とその活用
英語での語りかけ方
児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方
題材の選定、教材研究
学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）
ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方
ICT等の活用の仕方
学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）
小・中・高等学校の連携と小学校の役割
指導計画（年間指導計画・短時間学習）
英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）
第二言語習得に関する基本的な知識
児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）
異文化理解
児童や学校の多様性への対応

英語力

授業で扱う主たる英語表現の正しい運用
発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話
板書や提示物における英語の正しい表記
ALT等と授業について打ち合わせをするための表現
クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り
児童の発話や行動に対する適切な言い直し
児童の理解に合わせた適切な言い換え
児童の発話や行動に対する即興的な反応

授業研究

授業観察（中学校の授業観察も含む）
授業公開
公開授業等の企画・運営
モデルとなる授業

●は当該の段階において、扱うことが必須とされる研修項目である。

基礎	発展	推進
児童の特性や発達段階に合わせて授業を行うための英語力・指導力を向上させる	英語力・指導力を向上させ、校内研修や公開授業等の中心的役割を担い、各学校での外国語教育の質の向上に貢献する	英語力・指導力をさらに向上させ、メンターとして後進の指導にあたる
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
●		●
		●
		●
		●
		●
		●
		●
※ 学校・児童の状況に合わせて適切に扱う		
●	●	●
●	●	●
●	●	●
	●	●
	●	●
	●	●
		●
		●
●	●	●
●	●	●
		●
		●

●は当該の段階において、扱うことが推奨される研修項目である。

IV. 中・高等学校教員研修 外国語（英語）コア・カリキュラム

【全体目標】

中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導・評価に関する専門的知識と、授業指導のための技術や英語力を身に付け、教員として成長を続けていく。

◇キャリアステージに応じた目標

教職1～3年目

生徒の現状や学校の特性・特色等に応じた授業を実施するための英語力・指導力を習得する。

教職4～9年目

英語力・指導力を計画的・継続的に向上させる。また、授業公開を含む校内研修等において中心的役割を担うとともに、校内外との連携・協働を深める。

教職10年目以降

高度な英語力・指導力の習得に努めるとともに、メンターとして若手教員等を指導しながら、自らも成長を続けていく。

【研修内容】

1. 指導技術

◇一般目標

中・高等学校における英語の指導に必要な指導技術を実演を通して身に付ける。

◇研修項目

- ① 5つの領域別の目標に基づく指導
- ② 音声指導
- ③ 語彙・表現指導
- ④ 文法指導
- ⑤ 英語でのインタラクション（ティーチャー・トークを含む）
- ⑥ 若手教員等への指導技術の指導

◇到達目標

- 1) 5つの領域の指導技術を実演を通して学び、授業指導の中で効果的に使用することができる。
- 2) 日本人英語学習者の音声によるコミュニケーションを阻害する発音の諸要素等について実演を通して理解し、生徒の実態に即した的確な授業指導ができる。
- 3) 語彙・表現に関する指導について実演を通して理解し、生徒の実態に即した的確な授業指導ができる。
- 4) コミュニケーションを支える文法の指導について実演を通して理解し、生徒の実態に即した的確な授業指導ができる。
- 5) 授業において生徒の英語力等に応じた的確なティーチャー・トークができるとともに、生徒の英語習得を促進するような英語でのやり取りをすることができる。
- 6) 若手教員等へ指導技術を指導することにより、自らの指導技術を振り返り、その技術を一層高めることができる。

2. 授業づくり

◇一般目標

生徒の実態を的確に把握し、その理解に基づいた授業づくりや授業改善をするための研修を通して、英語教員として成長していく方法を身に付ける。

◇研修項目

- ①アクション・リサーチなどに基づく授業改善
- ②領域別の学習到達目標の設定と改善
- ③学習到達目標に基づく年間指導計画・単元計画の作成
- ④授業の組み立て
- ⑤学習指導案の作成
- ⑥教科用図書を活用した授業
- ⑦生徒による学習の振り返り
- ⑧ALT等とのチーム・ティーチング
- ⑨教材研究・ICT等の活用
- ⑩パフォーマンス評価を含む5つの領域の総合的な評価（テスト作成を含む）
- ⑪授業研究会等の企画・運営
- ⑫モデルとなる授業

◇到達目標

- 1) 授業改善のための方法について理解し、実際に授業改善に取り組むことができる。
- 2) 領域別の学習到達目標の設定の仕方を理解し、目標の達成状況から自らの指導と評価の改善のための視点を養うことができる。
- 3) 勤務校の生徒の実態に即した学習到達目標に基づいて、年間指導計画・単元計画を作成することができる。

できる。

- 4) 学習到達目標に基づく授業の組み立て方について理解し、生徒の実態に即して授業を組み立てることができる。
- 5) 生徒の実態に即した授業指導の目標・手順、評価の観点・方法などを系統立てて記述した学習指導案を作成することができる。
- 6) 教科用図書の構成や内容を理解し、授業指導において、生徒の実態に即して的確に活用できる。
- 7) 生徒を自律した学習者として育成するための手立てを理解し、生徒の実態に即した学習の振り返りをさせることができる。
- 8) ALT 等との効果的なチーム・ティーチングの在り方を理解し、生徒の実態に即したチーム・ティーチングを行うことができる。
- 9) 生徒の実態に即した教材及び ICT 等の活用について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 10) パフォーマンス評価を含む5つの領域の総合的な評価の仕方について、実演を通して理解し、生徒の実態に即したテスト作りや的確な評価ができる。
- 11) 英語教員の指導力・英語力強化のための授業研究会等の企画・運営の仕方を理解し、研究会等を実際に運営する際に若手教員等の指導をすることができる。
- 12) 若手教員等に対して、学習指導要領の趣旨を具現化したモデルとなる授業を公開することで、自身の指導力強化のための課題を見つけ、授業改善につなげることができる。

3. 専門知識

◇一般目標

生徒の実態に即した効果的な授業指導ができるように、英語の実践的指導に関する専門知識を実演や体験を通して身に付ける。

◇研修項目

- ①第二言語習得
- ②学習指導要領
- ③小・中・高等学校連携
- ④カリキュラム開発
- ⑤英語教育の最新事情
- ⑥教職に役立つ英文法
- ⑦音声指導に役立つ英語音声学
- ⑧異文化交流

◇到達目標

- 1) 第二言語習得の代表的な理論を理解し、生徒の英語習得・学習の促進に生かすことができる。
- 2) 学習指導要領に記載されている内容を十分に理解し、生徒の実態に即した授業指導に生かすことができる。

- 3) 小・中・高等学校の異校種間の連携の在り方を、実際に相互交流を行うことで理解し、系統的な指導を行うことができる。
- 4) 英語教育に関わるカリキュラム開発について理解し、学校や生徒の実態に即したカリキュラム開発を行うことができる。
- 5) 英語教育に関わる最新事情を理解している。
- 6) 日本人英語学習者に英語を教える上で必要となる英文法の正確な知識を有し、その知識を実際の授業指導に生かすことができる。
- 7) 日本人英語学習者に英語を教える上で必要となる英語音声学の正確な知識を有し、その知識を実際の音声指導に生かすことができる。
- 8) 異なる文化的背景や価値観を持つ人々と積極的に交流することによって、異文化を体験的に理解し、授業指導に生かすことができる。

4. 英語力

◇一般目標

英語教育のプロフェッショナルとして英語力の強化に継続的に取り組むと同時に、英語を教えるために必要となる英語力を育成する。

◇研修項目

- ①英語力向上研修（高度な言語活動の体験を含む。集中合宿、オンライン学習、短期・中長期海外研修など）
- ②英語の外部資格・検定試験（4技能型）を活用した英語力の自己モニター

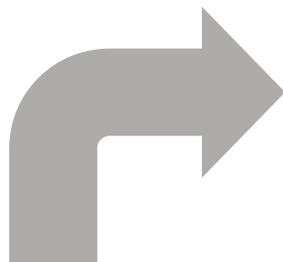
◇到達目標

- 1) 高度な言語活動の指導をはじめ、英語の授業指導に必要な5つの領域のバランスのとれた英語を駆使することができる。
- 2) 英語の外部資格・検定試験（4技能型）を活用することによって、自らの英語コミュニケーション能力を把握し、英語力強化に積極的に取り組むことができる。

5. 授業実践研究・改善

- (1)（異経験年数の教員で構成される）グループによる授業観察・実践の協働
- (2) 研修ポートフォリオ（授業映像ポートフォリオを含む）

中・高等学校教員研修
外国語(英語) コア・カリキュラム 構造図



外国語において育成を目指す資質・能力

(「中学校学習指導要領(案)パブリックコメント版」「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料」より作成)

知識・技能

- ・外国語の特徴やきまりに関する理解
- ・言語の働きに関する理解
- ・外国語の音声や語彙、表現、文法などを、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能 など

思考力・判断力・表現力等

- ◆ 外国語で表現したり、伝え合ったりすること
- ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力
- ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力
- ・外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力
- ◆ 情報を整理しながら考えなどを形成すること
- ・目的などに応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力
- ・知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力
- ・形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力 など

学びに向かう力・人間性等

- ・外国語の背景にある文化を理解しようとする態度
- ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度
- ・外国語を通して積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度 など

指導に必要な知識・技能

指導技術

- 5つの領域別の目標に基づく指導
- 音声指導
- 語彙・表現指導
- 文法指導
- 英語でのインタラクション(ティーチャー・トークを含む)
- 若手教員等への指導技術の指導

授業づくり

- アクション・リサーチなどに基づく授業改善
- 領域別の学習到達目標の設定と改善
- 学習到達目標に基づく年間指導計画・単元計画の作成
- 授業の組み立て
- 学習指導案の作成
- 教科用図書を活用した授業
- 生徒による学習の振り返り
- ALT等とのチーム・ティーチング
- 教材研究・ICT等の活用
- パフォーマンス評価を含む5つの領域の総合的な評価(テスト作成を含む)
- 授業研究会等の企画・運営
- モデルとなる授業

専門知識

- 第二言語習得
- 学習指導要領
- 小・中・高等学校連携
- カリキュラム開発
- 英語教育の最新事情
- 教職に役立つ英文法
- 音声指導に役立つ英語音声学
- 異文化交流

英語力

- 英語力向上研修(高度な言語活動の体験を含む。集中合宿、オンライン学習、短期・中長期海外研修など)
- 英語の外部資格・検定試験(4技能型)を活用した英語力の自己モニター

授業実践研究・改善

(異経験年数の教員で構成される)

研修ポートフォリオ

※本構造図が示すのは、「中・高等学校 教員養成コア・カリキュラム」に基づく大学での学びを経た上で教職に就いた教員がキャリアを積みながら成長していく上で必須と考える研修項目である。ただし、これらの項目を必ず独立した研修テーマとして扱うということではない。

5つの領域:「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」
●は当該ステージにおいて、扱うことが必須とされる研修項目である。●は当該ステージにおいて、扱うことが推奨される研修項目である。

